

学校関係者評価委員会評価結果（令和4年度分）報告書

学評委 第2号

令和5年6月22日

一般社団法人秋田市医師会長
秋田市医師会立秋田看護学校長
湊 元 志 様

学校関係者評価委員会

委員 庄子公子

委員 大原 樹

令和5年4月26日付け秋市医看第80号により依頼のありました令和4年度自己評価結果に対する学校関係者評価について、本委員会の評価結果を取りまとめましたので、秋田市医師会立秋田看護学校学校関係者評価委員会に関する規程第11条第1項の規定に基づき、下記のとおり報告します。

なお、評価結果の報告については、自己評価項目全般にわたるのではなく、次表に掲げる学校が定めた重点目標に係る評価項目を中心に評価結果を記述しています。

| 評価項目（大） | 重点目標 |
|-------------------|--|
| 第1 学校運営 | 感染予防対策を適切に講じ、学校内の感染拡大を防ぐ。 |
| 第4 教育課程経営 | 教育課程を円滑に運営する。 |
| 第5～12 教授、学習及び評価過程 | 成人の学習者として尊重した授業を展開する。 |
| 第13 経営・管理過程 | 教育環境の改善・整備を図るとともに、教育・学習活動等に関する情報提供を積極的に行う。 |
| 第14 入学 | 受験者を確保する。 |
| 第15 国家試験 | 看護師国家試験の全員合格を維持する。 |

〔注〕 「第16 卒業・就職・進学」に関する評価は、重点目標以外の項目

に対する評価です。

記

1 自己評価大項目「第1 学校運営」

- (1) 新型コロナウイルス感染症については、各学年ごとの集団的なワクチン接種の推進や検査キットの活用など様々な感染対策を行った結果として、感染者が出て感染が拡大しなかったことは、十分に評価できるものである。
- (2) また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大期においても、代替実習等の工夫をしながら、全ての実習日程を完遂できたことも評価に値するものである。
- (3) 実際の業務量からすると、看護教員の人数が不足していて、個々の教員の負担が大きくなっていることが一番の問題と捉えることができるが、新規に教員を採用してその定着を図るためには、働き方改革を行うことが重要であり、正職員のみではなく、パート職員の採用も検討した方がいいと考える。
- (4) 在学生に、将来的に本校で看護教員になるという選択肢もあることを在学中に伝え、看護教員の資格取得のための助成制度を新設するなどいくつかの支援制度を整えて看護教員の採用につなげる方策もあると考えられる。
- (5) 会議資料、施設見学その他職員の説明を通して感ずることは、組織的あるいは施設設備的には整えられてきているので、引き続き将来を見据えた学校運営を継続して行っていただきたいということである。

2 同「第4 教育課程経営」

令和4年度から、教育課程の専門分野において、地域の特性を学ぶ「地域・在宅看護論」や領域横断的な知識を学ぶ「成人・老年看護学」といった教育内容がスタートしたようであるが、新たな課題を解決しながら講義、実習ともに無事終了されたことは何よりであった。引き続き、在学生に対し良質な授業を行っていただきたい。

3 同「第5～12 教授、学習及び評価過程」

- (1) 令和4年度に限らず、小項目(4)の「学習への動機づけと支援」がいくつかの領域において評価が低くなっているが、領域横断的に教員同士が情

報を共有し合って、シラバスの提示や学習の指導について、養成所全体としての一貫性を尊重しながら学生に対する支援を効果的に行えるよう、より一層努めていただきたい。

- (2) 学生にパソコンを購入させ、電子テキストを利用して講義を行っていることは、時代の要請を的確に捉えていると思うが、今後は、学生に対しアンケートを行うなど電子テキスト等に関する客観的な評価を行って、見直すべき点があれば改善を図っていく必要があると考える。

4 同「第13 経営・管理過程」

- (1) 令和4年度にはモデル人形などを購入しているが、教材備品については今後も計画的に更新していただきたい。
- (2) AEDを設置しているが、適正な管理を行って、いざというときに支障なく使えるようにしておいていただきたい。
- (3) ホームページについては、『バーチャル学校見学』など他校に例を見ない興味深いコーナーがあるが、掲示されている写真などが陳腐化しないように更新に努めていただきたい。また、卒業生や教員のメッセージを直ぐに読めるコーナーがあると、受験生などには参考になると思われる。
- (4) 高等教育の修学支援新制度（授業料・入学金の減免）の適用を在学生在が受けられるということは、秋田看護学校のアピールポイントの一つになっているので、継続して制度の適用を受けられるよう、事務処理に遺漏がないようにしていただきたい。

5 同「第14 入学」

募集定員よりも受験者数が多いにもかかわらず入学者数が2人ほど定員割れとなってしまった理由は、3月下旬に行われた大学等の合格発表で進学先をそちらに変更する受験生がいたこと、及び受験生の質の問題であるという説明を受けたが、定員割れは学校運営に支障を及ぼすことになるので、今まで以上に進路ガイダンスや学校訪問、ホームページ等を活用して積極的に受験情報の提供に努め、受験生・入学生の確保を図っていただきたい。

6 同「第15 国家試験」

- (1) 令和3年度に引き続き、令和4年度卒業生も39人全員が看護師国家試験に合格したことは、大変すばらしいことである。
- (2) デジタルサービス（テストの配信、学生の学習進捗状況の把握、成績管理及び模試結果分析）の活用により成績が伸び悩んでいる学生の個別指導

を行うとともに、臨地実習を中止することなく学習の機会を確保できたことなどが新卒者の全員合格に結びついたという説明があったが、そのような取組を継続して行っていただきたい。

(3) 既卒者も全員が合格できるよう、支援方法を更に工夫していただきたい。

7 同「第16 卒業、就職及び進学」

3の「就職先の評価と調査の実施」と4の「卒業生の活動状況の把握と分析」に関する項目の評価がいずれも低い、卒業生に協力を仰いでアンケートをとり、まずは実態を把握したらいいのではないかと考える。

8 まとめ

自ら掲げた重点目標については、概ね達成できていると思われる。重要な課題の一つは、教員、学生のどちらも適正な人数を確保することであり、様々な方策に取り組み、将来に向けて安定的な学校運営をしていただきたい。昨今の時代の要請に叶う人材を育てるためには、スタッフを揃えて手厚くかつ丁寧に教育していく必要があると考えられる。